

保護者 様

唐津市立入野小学校
校長 田邊 理

説明会以降の動向について（お知らせ）

初冬の候、保護者の皆様にはますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

さて、9月24日(木)、『肥前町内の小学校の今後の動向等についての説明会』が行われ、PTA役員さんに加え、一般の保護者の皆さん方にも呼びかけ、出席いただきました。この件に関し、学校だよりNo.34で、以下のようにお伝えしていました。

24日(木)のPTA前期役員会に先立って、「肥前町内小学校の今後の動向等についての説明会」が行われました。本庁教育企画課の中山課長さん及び岡田係長さん、肥前市民センターから中山産業・教育課長さんと吉田係長さんが出席され、説明がありました。

説明では、まず入野小をはじめ肥前中校区3小学校の、令和8年度までの就学児童数の一覧表が示されました。その表によると、入野小では令和4年度に2・3年生が複式学級（2つの学年で1学級）となる見込みとのことでした。そして「複式学級となることのデメリット」や「平成19年の唐津市通学区域審議会答申により『複式学級解消を目的として、複式学級がある学校は学校統廃合の対象』であること」、「学校統廃合を進めるにしても、これまでの事例からも準備期間として2～3年はかかること」、「今後の児童数の推移などの実情から、どのように考えるか、保護者の皆さんの多様な意見を聞きたいこと」などについての話がありました。

もちろん、現在の保護者の皆さんだけでなく、未就学の幼児のご家庭や地域の皆さんの意見が大切であるとも言われていました。入野小学校の今後については、今後も折に触れて話題にさせていただくことが大切だと考えます。

本校の児童数をみると、10年前の2010年(平成22年)には119名の児童がいましたが、来年度は58名と半減しています。また令和4年度には2・3年生が複式学級となる見込みです。複式学級となり人数は増えますが、担任は1人ですので授業を行う際は、それぞれの学年が異なる学習をする間を担任が行ったり来たりしながら指導することとなります。これは学力保障の観点から非常に困難であることから、唐津市では「複式学級補助教員」という制度を設け、補助をする先生を雇用することとしています。しかし、近年は講師となる人材不足のため、対象となっても実際には配置されない場合も考えられます。

以上のような課題があることから、「学校の統廃合」を含めて、長期的視野に立って地域・保護者の皆様に考えていただきたいという、唐津市としての方針です。

実際、保護者の皆様から「説明会の後、何か動きはあるのでしょうか？」等のご質問もいただいています。現時点では、具体的な動きはありませんが、保護者の皆様としても大きな関心事であると考えます。ご意見や質問等について、学校を通して伝えることもできますが、直接担当課にお聞きいただくことも可能ですので、連絡先をお知らせします。よろしく申し上げます。